

# 我が基軸

**FronRit**

代表 本田俊正

## I 志をどこに置くか（特に、企業人として ≡ 社会人・家庭人） 最も偉大な師は、自らに与えられた環境である

### 1. 価値観

- ・自分自身が大切にしている価値観と、会社が大切にしている価値観とが同一化されているか、同一化できるか
- ・共有できる価値を発見し、その価値を得るために集団を組み、心をひとつにし、価値を享受する
- ・友の憂いに我は泣き、我が喜びに友は舞う・・・自他一体感、自利即他利

### 2. 経営理念

- ・経営理念を熟読することで、志の置き所が分かってくる
- ・企業という環境こそ、人格形成の最高の場
- ・組織は、自分が人間らしく、自分らしく生きる場であり、何より魂の教育の場  
その究極は、やりたいことに気づかせ、それを育むこと
- ・よき師の前に座る  
よき師とは、森羅万象、自分の周りにある全てのこと
- ・何からでも学ぼうとする、謙虚で愚直な心があれば、成長し続ける
- ・無知の知こそ、最高の智  
まず、あるがままの現実を受け入れる  
あるがままを、そっくりそのまま受け入れれば、楽になって肩の力が抜けてくる  
そうすると、いろいろな物事が見えるようになり、地に足の着いた成長が可能になる

- 全てが「教材」  
日常の基本動作、基本行動を身につける  
研修開始終了の号令時の挨拶・・・

人間の成長とは、嫌だと思ふことをやり、理屈に合わないことをやる時こそ可能となる

なぜなら、嫌いなことは、今まで逃げて避けてきたこと、つまりまだ自分が手をつけていない未経験の分野、自分にとって未知であり、未開拓の分野、それこそ自己の新たな発見の分野に他ならない

嫌いなこと、厭なこと、自分の理屈に合わないことが、好きになり、楽しくなり、理解できるようになるには、嫌いなこと、厭なこと、自分の理屈に合わないことを、好きになるまで、楽しくなるまで、理解できるまで、繰り返し実践すること、これ以外に方法はない

### 3. 組織

- 簡潔によって力となる
- 社長が命令するのではない  
状況が、社長を通じて命令する（状況の原則）

## II 我が人生に、思いを込めて（自省訓）

### 1. 人生二度なし、素晴らしい自己を自覚し、感動の日々に生きよう

#### （1）志の至らざるは、無常を知らざるが故なり

- ・夢が成就しないのは、生者必滅の摂理を自覚していないから
- ・人生の初めと終わりの指定は、自分の権限外
- ・「今」という「生」こそ、何人も奪うことのできない、自己の権限下にある、唯一確かな「生」であり、人生は「今」の連続
- ・「今」を、どのように、如何に使うか  
如何に生きたかが、人の価値を決める

#### （2）因果の摂理：原因と結果の法則

- ・この世は、厳然たる原理原則によって成立している世界  
「汝、現在の果を見んと欲すれば、応に過去の因を見るべし。  
汝、将来の果を見んと欲すれば、応に現在の因をみるべし。」
- ・我が今なす行為が、我が今思考するその思いが、我が今表現するその感情が、まさに明日の生活内容を決定する

#### （3）苦しみの中から、自分の素晴らしさを掴み取ることができる

- ・苦しみに中に、掴み取る条件が備わっている  
苦しんだ分量が、立派になれる分量である
- ・サービスとは、自分の素晴らしさを示すことである
- ・何事にも感動できる、やわらかな心を持つ
- ・青春とは、心の状態をいう  
人に感動し、自然に感動し、生きていることに感動し、自分自身に感動する  
感動できる心こそ、人生を豊かにしてくれる
- ・感動は、人間行動のエネルギーの根源

## 2. 私が変われば世界が変わる、心豊かな真の幸せの日々に生きよう

(1) 価値は相手の条件で決まるのではない、こちらの条件である

- ・相手を変えようとするな
- ・相手のそのままの姿、本当の姿を見ているか

(2) 失敗を恐れるな、改めないことを恐れよ

- ・失敗を恐れて行動しないことは、成長しないことであり、生命を失うこと
- ・失敗した時、何故失敗したかを反省し、直ちに改めよ  
自己改革となる「改める」という革新  
これから改めるでは遅すぎる、その場で直ちに改める
- ・失敗改善の原則、成果拡大の原則  
何が悪かったか（よかったか）、何故そうなったか、  
それを改める（拡大する）ために如何に決意するか

(3) 人に尽くした分量だけが、自分の得る幸せの分量である

- ・一体自分はどのくらい人を幸せにしてきたかを問うがいい

## 3. 今日の最高は明日の最低、日々革新の価値創造に徹しよう

(1) 力は力いっぱい出すことで、自分の力となる

- ・徹底の中にこそ、良質なものが生まれる
- ・些事を怠らない 微の集積

(2) 出来ないのではない、努力しないから出来ないのだ

(3) 人間に内在する無限の能力は、自己がその能力を、己の全てを賭けて必要としたとき、まさに発揮される。

(4) 相手も命懸けでくる

それ以上にこちらが命懸けでなければ勝てる訳がない

- ・儲けることは善である  
何故なら、命懸けの代償であるから

## (5) 優勝劣敗

- ・優勝劣敗とは、限りなく成長・発展せんとする本質（※）に対して、その本質の成長・発展を助けるか阻害するかという、己の中の出来事を云っている。

※本質・・・人間は、身体が卵子から大人の体格まで何億倍と成長するように、人格として、能力として、限りない成長を遂げんとする

ここから素晴らしい人間の本質と生き方を学び取ることができる

- ・この世は、価値の世の中、力によって支えられている世の中  
優れた価値を持ち得ないとき、勇気・信念・強き意志を持ち得ないとき、社会は不要として淘汰していく

従って、世に価値を提供できる、社会から必要とされる、強く優れた存在でなければならない

優勝劣敗、生存競争、適者生存の基準は、  
価値を創造し得るか、社会に寄与できるか、その環境に対応できるか、一にかかって自己の持てる力を発揮できるか、発揮し得るかを判定するもの

果てしなく進歩し、果てしなく革新される人類の歴史は、  
まさしく人間の本質が無限であることを、そして努力によって新価値の創造をもたらした先人の姿を示すもの

- ・企業における優勝劣敗・適者生存の本質は、人間の生き方を原点として社会に価値を与え役立ち得る企業こそ、存続が許されるという、人間の生き方を問うたもの

企業が社会に新たな価値を提供でき、社会に必要とされている限り、  
存続が保証される

新たな価値を提供できなければ、存続できない

(6) 敵は己の中にあり

- ・厳しさとは、人に求めるものではない 自らに課すものでなければなら  
ない  
自分を厳しく鍛えよ、それが人の役に立つということなのである

4. 愛と感謝を実践し、世の一隅を照らし、万灯の基となろう

(1) 愛は親が子に 感謝は子が親に 愛と感謝は同時並行

- ・人は自分ひとりの力では生きられない、多くの人のおかげで生きている  
おかげの究極が親
- ・両親がいたから自分という存在がある だからこそ、親への感謝が原点
- ・ああしてもらったから、こうなれた  
V S. ああしたから、こうなった
- ・君を生んでくれたのは母  
母のすべては、君の体の中を流れている  
君が母を大事にすることは、君自身を大事にすることになる
- ・子が親を忘れる日があっても、親は子を忘れる日はない

(2) 「我今、如何にあるべきや」 「我今、何をなすべきや」

- ・今やらねばいつできる、わしがやらねば誰がやる
- ・人を育てるには、厳父の右手・慈母の左手を持つて

### Ⅲ 総論から各論へ、具体的行動へ

我らは、実践の日々に生きることを盟約する

#### 1. 裏付け

- ・一つひとつの言動には、必ず何故そうするか理由がある
- ・意味のない言動はしない・・・意味のある言動にするのは自分
- ・真実か、本質かを、自分で確かめる姿勢を常に持つ  
「はず」や「つもり」で言わない

#### 2. 三案思考

- ・三つの案のうち、最優秀案を実行する習慣を身につける  
状況判断の原則・・・次善の案を実行すべき場合
- ・自分ならこうすると、いつも代案を持つ
- ・思考技術は人格形成にとって非常に重要で、人間の成長、人格の拡大の  
根源となり、核となるものである

なぜなら、人間成長の中心は自覚であるから

知識、情報、経験を自分の力とし、人格とするには、思考の作業を経て  
納得し、自覚し、自己化をしなければならない

これを、自己に於ける真実（真・善・美・聖）の確立という

#### 3、「言力」：知性と勇気と愛情とが一体となって生み出す、偉大な言葉の力

(1) 言葉は、その人の全人格から発せられた、心をもったもの

- ・言葉に思いを乗せて、飾らず、素直に話す
- ・人間は感じて動く  
その言葉に、心に感じる何かがあったとき行動を起こす

## (2) 正確に伝える

- ・要らぬことは言うな、要ることだけ言え  
言葉は簡潔であればあるほど、意図するところが相手にきっぱりと伝わる
- ・結論を先に言え、理由は後から言え、または聞かれてから言え

## (3) さわやかな言動を心がける

- ・感じのいい挨拶、元気な挨拶
- ・「はい」という返事は、全てを受け入れる魔法の言葉
- ・「ありがとうございます」は、全てを完成し、  
全ては「ありがとうございます」に帰納する
- ・動作の基本を確実に繰り返していくことで、実践力が鍛えられる



#### IV 悪人正機

##### 1. 母の愛

すべて人は、母の限りない愛情を注がれて育つ  
子は、母の生命を奪いながら育つ  
如何にこの事実に目覚め、報恩感謝を尽くしても、尽くし切れるものではない  
まさしく、子は母の生命を奪う「大悪人」である

その悪人が、なんと素晴らしい価値を（真実を、美を、文化を）創造することか

この現実から、我々の生き方が判然としてくる  
母の愛情に照らして、決して後悔することのない人生を送る決意

##### 2. 誕生日

自分の誕生日は、母のお祝いの日  
なぜなら、母が出産という、命懸けの受難の日を切り抜けた日だから

#### V あなたが毎日（職場で）、命を賭けて創り続けているものの名前は？

- ・「自分」以外の回答  
間違いではないが、僕の求める正解ではない
- ・「自分」の回答  
不特定 VS. 特定  
この世で、だた一人の自分を指し示す言葉

#### VI 我が姿

「強くて、潔くて、頑固で、遊び心があって、おしゃれ」な男に

#### VII 我が妻に

万感の思いを込めて、「ありがとう！！」

以上